



大阪部会(第 36 回)

日 時: 2013 年 12 月 14 日(土) 18:00~20:20

場 所: 同志社大学大阪サテライトキャンパス

【内容要旨】 第 36 回の大阪部会の出席者は 10 名。

(1)まず、経済教育ネットワーク篠原総一代表(同志社大学)から、最近の活動報告があった。3月22日(土)に予定されている年次大会では、3年連続で法教育と経済教育が取り上げられる。それに関連して、中学校公民の教科書についても、法単元と経済単元の分離を見直し、社会の仕組みを学ぶためには法的視点と経済的視点とをあわせて扱うことの必要性が強調された。ただ、あわせて紹介された埜枝里子氏(多摩高校)の資料にみるように、日常生活に密着し経済的な視点との関連づけがしやすい民法、商法、刑法などは公民教科書でほとんど取り上げられず、もっぱら憲法など公法だけであることを考えると、現内容の公民教科書での法と経済の融合には非常に難しい面がある。

(2)引き続いて篠原代表から、経済教育ネットワークの活動を通して集められた教材を、現場の先生に使いやすい形でホームページにアップすることを進めたいとの提案があった。また、新聞を活用した経済教育の仕方についても、情報を集め、紹介していきたいとの考えが表明された。

(3)山本雅康氏(奈良学園中学校高等学校)から、中学校、高等学校での時事問題の教え方について、豊富な事例紹介があった。Q&A方式で、単に知識を得るばかりでなく、自分たちで調べ、考えることの重要性も指摘された。

(4)河原和之氏(立命館大学ほか)から、日本経済教育センターで加藤一誠氏(日本大学)とともに開発しようとしている「地理と経済の融合教材~BRICs 諸国を中心に~」の一部が紹介された。今回はインドについて、地理、生活、社会、政治など様々な側面から知った後、最後に自動車会社の立地を考えさせることで、総合的にインドについて考えながら学ばされる教材となっている。ブラジルや南アについても、同様の教材開発が進められている。

(5)李洪俊氏(長吉中学校)から「市場経済のしくみ」を学ぶ授業教材が紹介された。交換経済のよさ、貨幣の働きに触れたあと、市場での価格の決め方について手を動かしながら考えさせる教材となっている。購入したい人の希望価格、売りたい店の希望価格をもとに需要曲線・供給曲線を描かせ、多様な希望価格をもつ売り手、買い手がいたときの、市場での均衡価格の決め方が明らかになるように構成されている。それにとどまらず、需給曲線のシフトや、市場価格の需給調整機能、供給曲線の背後にあるコスト構造なども扱える教材となっている。部会参加者からの関心は高く、教室で使う場合に生徒たちに難しい点や教え方に工夫を要する点などが議論になった。

(6)その他、東京部会や札幌部会で配られた資料がいくつか配布された。また、2014年度夏の経済教室のプログラム作りがはじまっており、最近増えている新入教員のための時間や日程をとるべきかどうか、そこでどのように何をするか、などについて議論された。

(文責 野間敏克)

次回開催予定: 2014年2月15日(土)、時間は18:00~20:00、場所は未定。